

2022年12月4日 聖餐式説教

本日は降臨節第二主日です。降臨節は御存知のように二つの目的があり、一つは間もなくやって来るクリスマスの準備をすることです。み子をお迎えするに当たって心の準備をし、心を清めて主イエスをお迎えするのです。私たちが4本のローソクを灯し、クリスマスを待ち望む準備をいたしますのも、クリスマスを迎える準備の一つの手段なのです。

そして降臨節もう一つの目的は、再びこの世に来られ天国に入れる者とそうでない者とを分けられるとき、すなわち終末の時を待ち望むということです。福音書に選ばれております箇所を見てみますと、降臨節はどちらかという後の方、再び来られる主イエスを待ち望むときというほうに重点が置かれているようです。そういうわけですから、私たちはこの降臨節に、自分の姿や信仰生活を振り返り、主の御言葉に学ばなければならないわけです。先週のメッセージは「目を覚せ」でありました。あなたの信仰生活はそれでいいのか、主なる神の使命を十分に果しているのか、目を覚みなさい。ということでした。そして本日のメッセージは「悔い改めなさい」ということでした。

本日の福音書に出てまいりますヨハネは、聖書の中に多く登場しますヨハネの中から区別するために、洗礼者ヨハネ、または施洗者ヨハネと言われております。洗礼者ヨハネは主イエスより半年早く生まれました。両親は父ザカリヤと母エリサベツですが、エリサベツと主イエスの母マリヤは親戚でありましたので、ヨハネと主イエスもこの世的には親戚ということになります。しかしもっと重要なのはヨハネと主イエスは親戚以上の関係であったということです。主イエスはこの世の救い主として来られましたが、旧約聖書の預言によりますと、その前に道を備えるもの、荒野でよばわる者の声があると記されており、これがヨハネだったわけです。従ってヨハネは主イエスが来られるに当たって主なる神より遣わされたもの、道を備えるものであり、主なる神の偉大な救いのご計画の使命を負ってこの世に来たのです。

ヨハネが道を備えることとはどんなことだったのでしょうか。それは人々に救い主の到来が近いことを告げ知らせ、人々に悔い改めを促すことでした。そして人々に洗礼を施し、悔い改めにふさわしい実を結ぶよう勧めていたのです。本日私たちが耳を傾けるのはこの言葉であります。

皆様はよきサマリア人の物語を御存知のことと思います。この譬話の中でルカは、実は主なる神の前に傷つき倒れ、助けを求めているのは自分自身であることを教えております。また私たちは、まちがっても自分は人のものを盗んだり怪我をさせたり半死半生にしてしまったりはしない、と思っています。しかし私たちは本当にそうなのだろうか、今日様々なところで話題になっている差別の問題などを考えてみると、私たちは知らないうちに人々を傷つけ奪い取り、苦しめていることがあるのです。それは私たちに強盗の面があることの証であるわけです。私たちはそうした裸の自分を見つめて、悔い改め、罪人でありながら主なる神に用いられていく、この真実の上にはしっかりと立たなければならない、ということでした。これは誠に重要なことでもあります。悔い改めよとのヨハネの言葉は、自分の中にある強盗の面、見にくい面、そうしたところをよく見つめて自分の正しい姿を見よ、そしてその姿をもって救い主、主イエスと出会いなさい。こういうことであつたのです。目を覚し、自分自身の姿を、目を反らさずに見てみなさい。これが私たちの救いの始まりである。ヨハネは私たちにこう語っていたのです。この一週間、私たちそれぞれが自分の姿を見つめるときを持ちたいものと思います。